



2019 (平成 31) 年 1 月 29 日

富山県知事

石井隆一 殿

「立山黒部」世界ブランド化推進に対する意見

日本イヌワシ研究会 (SRGE)

会長 小澤俊樹



イヌワシ *Aquila chrysaetos* は、生態系の頂点に位置する大型の猛禽類で「文化財保護法」により天然記念物に指定され、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」では国内希少野生動植物種、環境省のレッドリストでは絶滅危惧 I B 類として掲載されるなど、その保護が法によって定められている貴重な生物です。

日本イヌワシ研究会は、1981 年の発足以来、わが国で絶滅の危機にあるニホンイヌワシの研究と全国規模での生息地保全に取り組んでいます。当研究会の調査研究によって、国内に生息するイヌワシの繁殖成功率が 10~20% 台にまで低下していること、既知の 300 ほどある生息地から消失してしまったつがいが、この 30 年で 100 ペアを越えていること等が明らかとなっています (日本イヌワシ研究会 2017)。また、富山県では 1990 年頃 18~27 ペア最大 77 羽いるとされていたイヌワシが、現在 5 ペアと全国平均をはるかに上回るスピードで減少していることが明らかとなっています (池田ほか 1990, 小澤 2008, 小澤未発表)。

当研究会では、現在、富山県が「立山黒部」世界ブランド化推進会議において審議中のプロジェクトのうち、「立山~弥陀ヶ原ロープウェイ」ならびに「アルペンルートの早期開業・冬季営業」が、当地を行動圏に持つイヌワシつがいの生息に大きな影響を及ぼすものと考えています。また、周辺には複数のクマタカつがいの生息しています。

イヌワシとクマタカへの影響予測、ならびに立山地域における観光のあり方について、以下に示します。

1. イヌワシおよびクマタカへの影響について

1) 立山～弥陀ヶ原ロープウェイ

想定ルート①(称名滝駅～大観台駅間)

想定ルート①は、人の手が殆ど加わっていない自然植生に広く覆われており、同時に富山県に生息する数少ないイヌワシ繁殖つがいの行動圏内部にあります。また、本イヌワシつがいの営巣地は、想定ルート①から非常に近い位置に存在し、1999年より開始した当会員の調査において6巣(1999年以降繁殖は全てこのいずれかの巣を使用)が確認されております。

さらに、想定ルート①は豪雪地域特有の天然林や雪崩草地などの好適環境が広がることからイヌワシの重要な狩り場にもなっています。地上から高い空中に架空線を設置するロープウェイの建設と稼働は、すでにアルペンルート周辺に多く訪れる観光客や登山者により狭められているイヌワシの狩り場をさらに狭めるものであり、つがいの生存に十分な食物を確保できなくなると予測されます。これは、イヌワシの繁殖を妨害するだけでなく、つがいの消滅を招く危険性を高めます。



造巣行動後に求愛飛行をみせたイヌワシつがい(左が雌, 右が雄).
この後、2羽で探餌しながら想定ルート①方向へ向かい姿を消した
2019年1月14日 10:22 イヌワシとの距離約4km 地点より撮影

想定ルート②(立山駅～美女平駅間)

想定ルート②は、想定ルート①同様、イヌワシ繁殖つがいの行動圏内部にあります。

また、想定ルート②は、クマタカの繁殖つがいの行動圏内部でもあります。このクマタカつがいの営巣地は、想定ルート②から極めて近い位置に存在していることが会員の調査において確認されております。林に隠れる既存のケーブルカーとは異なり、地上から高い空中に架空線を設置するロープウェイの建設と稼働は、営巣地周辺での繁殖活動の妨げとなります。このことは、将来的にクマタカつがいの消滅を招く可能性があるかと推測されます。

2) アルペンルートの早期開業・冬季営業について

イヌワシの繁殖活動は、前年11月頃の求愛期から始まり、造巣、産卵・抱卵、育雛を経て、ようやく5月下旬～7月上旬に雛の巣立ち時期を迎えます。中でも、産卵前の栄養を蓄える重要な時期から親鳥が最も神経質になる育雛初期に、積雪期のロープウェイの稼働ならびに除雪作業、アルペンルート周辺の訪客があることは、イヌワシの繁殖に大きな影響を与えることとなります。このように、繁殖の重要な時期に相当な面積を利用不可にして食物不足を引き起こすアルペンルートの早期開業・冬季営業は、厳に避けなければならないと考えます。

2. 立山地域における観光のあり方について

イヌワシは、生態系の頂点に位置する生物です。イヌワシの安定した生息や繁殖が、自然環境の豊かさを示します。良好な環境に生息するイヌワシは、何十年もその地で生息し、毎年繁殖します。しかし、立山地域に生息するイヌワシつがいは、この20年間で2回しか繁殖成功できていません。そればかりか、個体が何度も入れ替わり、一時は3年もの間、1羽だけの生息になっていました。今、富山県が観光資源として売り出している立山地域の環境は、既に一部の希少野生動植物にとって生息しづらい環境になり始めています。

「立山黒部」の観光は、唯一無二の自然環境があって成り立つものであり、自然環境を減衰させることは観光資源を減衰させることに直結します。今、目を向けるべきは新たな開発よりも観光資源となる自然環境と野生動植物を本来の姿に戻すことではないでしょうか。

以上より、日本イヌワシ研究会は、富山県知事に対し、「立山～弥陀ヶ原ロープウェイ」および「アルペンルート」の早期開業・冬季営業、両プロジェクトの中止を求めるとともに、立山地域の観光のあり方の再考を求めます。

【参考文献】

- ・日本イヌワシ研究会 (2017) 全国イヌワシ生息数・繁殖成功率調査報告 (1981-2015). *Aquila chrysaetos* 26 : 1-16.
- ・池田善英・山本正恵・松村俊幸・太田道人 (1990) 富山県におけるイヌワシの分布と個体数推定. 富山県科学文化センター研究報告 13 : 131-140.
- ・小澤俊樹 (2008) 富山県におけるイヌワシ *Aquila chrysaetos* 生息数とその危機的状況. *Aquila chrysaetos* 22 : 1-9.

【連絡先】

日本イヌワシ研究会 事務局 島田裕史 (事務局長)

Email : MXL03520@nifty.com TEL : 090-7739-7761

〒170-0011 東京都豊島区池袋本町 2-28-13 FAX : 03-3986-6639

日本イヌワシ研究会 小澤俊樹 (会長・富山地区委員)

Email : eagleis@ruby.ocn.ne.jp TEL : 090-8805-1466

〒930-1321 富山県富山市大山上野 615-10 FAX : 076-483-3453

平成 31 年度

「立山黒部」の世界ブランド化推進等
に関する要望

富山県商工会議所連合会
(公社) とやま観光推進機構

平成 31 年度予算編成に当たり、別紙に掲げる事項
について、格別の御配意を賜りますようお願い申し上
げます。

平成 31 年 2 月 6 日

富山県知事 石 井 隆 一 殿

富山県商工会議所連合会
会 長 高 木 繁 雄

(公社) とやま観光推進機構
会 長 高 木 繁 雄

「立山黒部」の世界ブランド化推進と ロープウェイ等の早期整備について

県では、「立山黒部」の持つ自然・歴史・文化・産業・防災といった多種多様な魅力をより一層磨き上げ、「立山黒部」を世界水準の「滞在型・体験型」の山岳観光地とするため、『立山黒部』世界ブランド化推進会議を設置し、様々なプロジェクトを推進されています。

「立山黒部」の雄大で美しい自然や多様で貴重な動植物は、県民の誇れる財産として次の世代に引き継いでいかなければなりません。また、幅広い世代の旅行者・登山者が訪れるこのエリアは、近年外国人の旅行者や登山者が著しく増加するなど、今後も国内外からの観光客が増加し、世界的な観光地となる大きなポテンシャルがあります。

そのため、「立山黒部」の雄大で美しい自然環境の保全や安全対策にも十分留意しながら、観光資源の磨き上げを図ることが重要です。

しかしながら、例えば、立山ケーブルカーについては、供用開始から60年以上が経過し、その輸送能力に限られ、繁忙期に数時間に及ぶ待ち時間が生じており、また、施設の構造上バリアフリー化が困難である等の課題があります。また、落差日本一の称名滝についても、これを十分に眺望できる環境がアクセス面も含めて整っていないなどの状況にあります。

そのため、「立山黒部」の自然環境保全と安全対策に十分留意しながら、国内外から訪れる観光客の満足度・利便性の向上に取り組み、観光をはじめとする県内経済のさらなる活性化や魅力あふれる県土づくりにも寄与されるよう、以下の事項について要望します。

- ① ロープウェイ等の導入に必要な調査・検討と早期整備の推進
- ② 称名滝を十分眺望でき観光客の満足度を高めるための施設の整備やアクセスの向上
- ③ 観光客の多様なニーズに対応した世界水準の宿泊・滞在環境の整備
- ④ 登山道の整備や案内看板の外国語併記など、登山者の安全対策の充実
- ⑤ ライチョウ保護柵の設置など、とやまのライチョウサポートの強化

平成31年2月6日

富山県知事
石井 隆一 様

NPO 法人富山県自然保護協会
理事長 菊川 茂



称名滝一大観台ロープウエー建設計画についての要望書

立春の候、日差しにやわらぎを感じるころとなりました。日頃、県政への格別のご努力に対して深く敬意を表します。

さて、これまで、各報道機関などの報道により標記による計画を側聞しております。

本協会は、平成26～28年にかけて、上記計画に近接する称名峡谷、大日平、弥陀ヶ原、上の子平周辺を、地学・生物・環境・遊歩道部門について調査を行いました。（『立山・大日平学術調査』—ラムサール条約登録湿地学術調査団—）また生物部門については、さらに同29～30年と引き続き5年間にわたり、植物・いきもの・池塘の状況などを調査しました。

これらは、同地域における調査としては実に50年ぶりのものでした。

この50年間の室堂平や弥陀ヶ原駅舎周辺などの地域は、温暖化などによる植生の変化、外来植物の侵入拡散、観光客の増大、とりわけ近年外国人観光客等による踏み込みやマナー違反など、その変化に驚きを禁じえません。

しかし今回の上記調査範囲は、長い間にわたって木道から逸れないことや動植物を傷めないことなど厳しい保全活動が行き届き、結果として、バス沿道を除き外来植物の侵入はほとんど見当たりませんでした。また多くの池塘や散在する石の周りに樹木を茂らせた小丘、オオシラビソやハッコウダゴヨウなどの樹海のような広がり、初夏のころまでの巨大な雪原のうねりなど、驚くべき且つ多様な光景は、チシマザサの拡大は見られるものの、おおむね保全は良好で大きな損壊には気づきませんでした。

さらに、鳥たちをはじめ昆虫、カエル、ネズミ類など、この地の厳しい環境に適応し享受し生活の場としていました。植物も然り、台地の繊細な環境に応じて変わらず命をつないでいました。

また、池塘群の調査では、台地のゆるい傾斜やくぼみ、水流や水脈の影響、膨大な積雪や降水、さらに風勢までも存続・変遷の条件に取り込みながら、営々とあの素晴らしい光景をとどめていました。この池塘をはじめ生き物や台地における現象など、全て繊細で微妙なバランスの上に営まれていることを、まざまざと受け取ったところです。

改めて、大自然へ斧が加えられること、メスを入れることに対して、細心の配慮が重要と感じたところです。

この度のロープウエー建設計画に対しては、上記のことも念頭に置かれ、自然愛護・環境保全、とりわけ貴重な原生林（立山杉などの巨木）、希少猛禽類の生息への配慮、その他の見地から、十分な調査とご検討をお願いするものです。

天下に誇る立山の山水景観の保全によってこそ、ますます観光の価値が高まることも見過ごせません。

ホンシャクナゲは雪解けとともに崖上に咲きだすため、車窓からは意識して見上げないと見えない。そのため、存在はあまり知られていない。これより標高の高いところはハクサンシャクナゲになる。



ホンシャクナゲ（20株程度生育）



ハクサンシャクナゲ（標高の高いところに生育）

建設予定地付近は、ちょうど両者の交代の地点になっている。いずれも美しい花である。ハクサンシャクナゲにおいては、立山城（美女平～室堂・雄山）ではこの地にしか生育していない貴重なものである。大切に守らなければならない。



イチヨウラン
富山県カテゴリーでは
絶滅危惧種 第2類

（これまであまり存在は
知られていなかった。）
H, 28年の調査で発見

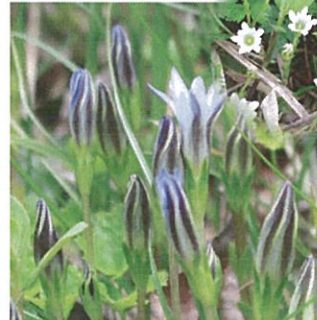


ツバメオモト（長年かけてここまで
大きくなった株が多く存在）

他に周辺には、ミズバショウ群生地があり、観光客は歓声を上げる地点である。上・下記の植物などは立山地域では数が少ない。失われてしまうと代替えがない。また、美女平から眺めてきた立山杉などの巨木は、代替わりしながら風雪に耐えてきた姿で生育しており、巨木に関しては建設予定地より先では見られなくなる。いずれも、大切に守らなければならない。



ヤマトキソウ
キタゴヨウの巨樹



タテヤマリンドウ
立山での花色はほとんど白
であるがこの周辺のみ紫色



フデリンドウにギフチョウ

